2002 年度　文京学院大学大会

インナー大会活動報告書

環境経済論

テーマ：環境と経済の共存　～今後望まれる環境のあり方～

代　表：原 梨沙

参加者：高橋 浩平　長谷川 義之　渋谷 優子　大城 利佳　山本 真梨子

参加パート：中央大学　経済学部　緒方ゼミ

立正大学　経済学部　筆法ゼミ

論点

将来に必要となる環境と経済の共存のために、今後望まれる環境のあり方を様々な視点から見ていこう。

6 月に行われたテーマ設定会議で以上の論点を掲げ、3 大学でインナー大会を進めていくことになりました。特に、中央大学は夏休みにベトナムでフィールドワークを行い、その経験を活かした論文にしたいということだったので、特に視点は絞らずに「様々な視点」からのアプローチで環境問題に取り組んでいこうということになりました。

インナー大会までの連絡手段として、当ゼミの BBS を開放しまして連絡を取りたいと考えておりましたが、他大学の方は馴染みが薄かったらしく、有効に使用されるまでには時間がかかりました。

私たちは、今回の論点を踏まえ、今日の地球環境問題の根幹にある要因として産業活動があると認識、現在社会経済から得ている満足感・利便性・効用を維持したままの状態で、環境にかかる負荷が小さくなる社会・企業を目指すために必用なこととは何かに取り組んできました。結論としては、企業の利益と環境への取組みは現時点では相反するところにあり 2 つの調和を図っていくことは難しい状態であるが、企業にとっても環境への配慮は不可欠であり環境負荷の小さい産業構造に変革していくことが必須であると考えます。

当日は、各大学ともに論文の発表をしてから再度強調したい点を発表、質問をする形になりました。中央からはベトナムの現状やこれから望まれること、日本が取り組めることを。立正からは水や森林などより身近なテーマの発表があり、今まで考えたことのない視点からの発表は興味深いものでしたが、視点が違いすぎて話し合いにはならずどちらかと言うと発

表会のようになってしまい、何か１つの結論をだしましょう。となっても意見をまとめる事が出来なかったことが残念でした。

　反省としては、今回のテーマは私個人が興味をもっていた問題で、みんなの関心を最後まで最大限に引き上げることが出来なかったことにあります。テーマを決めるときは皆で話し合いをして決めたほうがみんなのモチベーションも高く持続できるのではないでしょうか。また、他大学・議長団との連絡をより綿密にとっておいた方が当日の話し合いもスムーズに行うことが出来ると思います。
2 年生は初めてのインナーでしたが、ものおじすることなく積極的に取り組んでくれたことを嬉しく思い、来年度も今期の反省を活かして有意義なインナー大会になることを望みます。その他 3 年生も私を支えてくれた事を感謝したいと思います。お疲れさまでした。

日本経済論
テーマ：財政金融政策～デフレ脱却～
代　表：伊藤
参加者：白井、岡田、間仁田　修

参加パート：日本大学　商学部　関谷ゼミ
　　桜美林大学　経済学部　前畑ゼミ

論点
　望月ゼミは、インフレターゲット、財政政策支出、不良債権早期処理、関谷ゼミは、インフレターゲット反対、財政政策支出、不良債権早期処理、前畑ゼミは、インフレターゲット反対、補助的な財政政策、不良債権処理早期処理は反対というそれぞれのゼミのスタンスのもと、金融、財政、不良債権の３つのディスカッションにおいて、それぞれの主張に対する意見交換、論争を行った。望月ゼミでは、総需要不足を重視、関谷ゼミにおいては、特に不良債権による問題を重視、前畑ゼミにおいては、短期資金市場の問題を重視した主張を行った。

総括
　今回のインナー大会は、多角的な経済分析をするということと交流を深めるという点でたいへん有意義なものになりました。
　ディスカッションでは、一方通行の議論になるのではなく経済論争で盛り上がりました。ディスカッション終了後は飲み会の席で意気投合し、非常に仲がよくなりました。

　こちらの論文では回帰分析を用いて公共投資の規模を独自に計算しましたが、それがかな

りインパクトがあったようです。当初はどこかからデータをもってきたものと誤解されていたようで、事実を知って驚いたそうです。理論的な分析もよかったそうです。

　このまま一期一会にしてしまうのはもったいないということで今後も交流を続けることになりました。
　２月にまた集まって就職情報の交換をしようという案が挙がっています。
　前畑ゼミの教授とゼミ生と望月ゼミの教授とゼミ生の間で飲み会をしたいという希望がありました。正確な情報ではありませんが、前畑教授が望月教授に興味を示しているそうです。関谷ゼミからは合同ゼミということで互いに４人程度でかまわないので経済のディスカッションをまた行いたいという希望がありました。前畑ゼミもできれば参加したいとのことです。

　以上の通り、今回のインナー大会は大成功でした。

金融論

テーマ：金融市場の活性化～国際的に通用する効率的市場の創造～
代表者：朴　亮太郎
参加者：井口、伊藤　瑠美、関　和則、島崎　恵子、金子　杏奈

　我々の班では当初国際金融的なことをやろうと考えていましたが、結局国内の金融市場にテーマは決定しました。我々の論文の簡単な流れは、一章で現在の不況と金融システムの関係について考察し、２章では主に銀行を初めとする間接金融機関と直接金融機関の日本での現状について、３章では比較的日本より効率的に機能しているアメリカの金融システムについて、終章では短期的には銀行を初めとする間接金融システムを建て直し、長期的には直接金融の比率を高めてゆく。そのためには、不良債権処理を促進し銀行を建て直し、直接金融システムについて、やはり法整備、税制、情報開示等を促進してゆく。というようにまとめました。
　相手のゼミは中央大学首藤ゼミ、駒澤大学瀬戸岡ゼミ。それぞれのゼミ論文について説明すると
中央大学首藤ゼミ　　ゼミのテーマ：完全な金融ゼミ
　　論文：企業年金改革と年金基金におけるコーポレート・ガバナンス
　内容としては企業年金の運用面での改革が初めにあげてあり、年金資金は多額の資金を機関投資家が一括して運用することにより、企業に対して議決権を行使することができそれによって、投資先の企業の経営に関与し効率的な経営を促すことが可能である。年金という性質上長期保有が原則となるため、短期のキャピタルゲインをねらいとした一般の投資家よりも企業に対して、長期的な視点で真の意味で経営を改善できる。

駒澤大学瀬戸岡ゼミ　　ゼミのテーマ：アメリカ経済

論文：銀行の生き残り

内容としては、グローバル化の中で生き残ってゆくには日本の銀行は利益率を上げなければならない。そのためには、銀行は他の金融機関との M&A により多彩なサービスを提供し顧客を取り込んでゆく必要がある。

あとに追加された項目として不良債権処理を最初行うということもあげられていた。

。

当日の議題としては「銀行のありかた」「コーポレートガバナンス」「証券市場の活性化」の３っつでした。一つ目の議題についてはなぜか預金をどうしたら活用できるかの議論に進んでいっていまい、論文にはお互いにない内容であったのでゼミというより個人の意見で進んでいったかんじでした。この流れは最後まで続きました。２つめ３っつめは時間の都合でまとめて進行されました。ここではまたしてもなぜかプロジェクトファイナンスについて議論がなされ、そのあとでユニヴァーサルバンクの妥当性について議論を行いました。結果としては、実際銀行で証券等が買いやすくなったからといって、証券が変われるようになるのかというところどまりでした。

今回の反省としては、提出期限を守れなかったことが第一にあげられますが、今後のことを考えれば最も実感させられたのは、うちのゼミではマクロ経済を中心にやっているため知識が偏っており、なかなか証券の話などはついてゆけない部分があったので、もう少し幅広くマクロ経済のみという進め方を反省する必要があるように感じられました。

さらに付け加えたいこととしては、我々のゼミでは論文はインナー大会一回のみで使用されていますが、中央さんなどは学内、インナー、証券論文大会の三回で使用されるためより中身を充実させられ、得るものも大きいように感じました。